

能登川地名考

The origin of Notogawa's name

どうして「能登川」というのでしょうか？ 誰もが疑問に思うことです。県内でも、愛知川町には愛知川が、安曇川町には安曇川があるのに、能登川町には能登川がない。どうして？

アイヌ語起源説

地名起源の勉強をすると、少なからずアイヌ語にその起源を求めていることが多くあります。能登川の場合も能登半島と同じく、アイヌ語の「ノット（岬という意味）から来ているとよく耳にします。

しかし、地名の起源を探るには、まず日本語でその語源を考えるのが原則のようです。十分に日本語で検討したうえで、どうしても解釈がつかなければ、アイヌ語や朝鮮語で考えてみるのが順番です。ですから、どうもこの説は正しくないかもしれません。



能登川と能登半島？

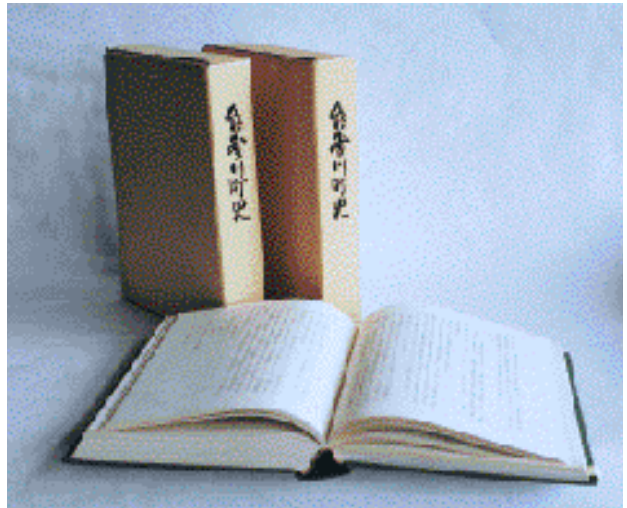
『能登川町史』によると

やはり、アイヌ語説を否定しています。

まず、当地が沼沿いの地であったことから、このことを示す「ヌト」（沼処）という言葉が、^{のど}咽喉と同じく狭い通路を示す「ノド」という言葉が地名となり、そこにあった川を「ノトガワ」と呼ぶようになったのではないかと言っています。「ヌト」あるいは「ノド」が、「ノト」になまったという考えです。

こうしてできたノトガワの地名が、村名となり、町名となりました。

また、漢字の表記は「音」を置き換えただけのことが多く、あまり漢字の意味にとらわれない方がよいそうです。



『能登川町史』は郷土研究の大切な参考書です。

能登川という川は

これも『能登川町史』に載っているのですが、伊庭の小字に「能登川橋」というのがあり、この場所が瓜生川に沿っていることもあって、いまの「瓜生川」は、以前のある時期「能登川」と呼んでいたと書かれています。

さらに、長く西小学校や東小学校におられた中川真澄先生が、『朝鮮人道延絵図』に描かれた能登川町内の瓜生川にあたる川の名前が、「能登川」と書かれていることを見つげられました。これによって、瓜生川が能登川であったことがほぼ確実となりました（『能登川地名考』『近江地方史研究第27号』平成4年 1992）。



小字「能登川橋」と瓜生川